令和４年度　学校評価報告書

4段階評価			
	A	ほぼできた	3.2　以上
	B	概ねできた	2.6～3.2未満
	C	やや不十分	2.0～2.6未満
	D	不　十　分	2.0　未満

島根県立江津工業高等学校

※アンケート質問項目の評点化：４:強くそう思う　３:そう思う　２:あまりそう思わない　１:全くそう思わない　※少数第2位を四捨五入して表示。　※(　　)令和3年度

グランドデザイン				評価計画			自己評価					学校関係者評価		改善策
学校像			生徒像	重点目標	評価項目	達成のための方策	生徒	保護者	教職員	評価	結果（抜粋）と課題	コメント（抜粋）	評価	
地域産業を担うテクノロジストの育成	・生徒自身が自らの成長を実感できる学校 ・地域社会や保護者の期待に応えうる学校	・地域産業を担う人材を育成する学校 ・積極的に社会に貢献する人材を育成する学校	・自立・協働・創造の資質と人権感覚を持った人材の育成　・５S教育を理解した人材の育成　・ＫＹ能力をもつ人材の育成	人権感覚の涵養	他者との協働活動を育む指導	・毎学期の授業評価アンケートにおいて、生徒同士で話し合う機会を調査し、改善を実施。 ・キャリア・パスポートを活用し、グループ学習を実施。	3.1 (3.1)	3.1 (3.2)	3.2 (3.2)	B (B)	【結果】 ・各科目における授業評価アンケートから、協働的な学習に関する授業改善を行った。 ・キャリア・パスポートを活用し、学期末や行事前後に協働活動を育む指導を行った。 【課題】 ・「地域の人から学ぼう」や「企業見学」における双方向の対話活動機会の提供。	・多様性も考慮し継続をお願いしたい。 ・業務の棚卸を進め、外部に頼める業務は外に出していくとなお良い。 ・地域に出向いての取り組みは、評価できる。 ・キャリア・パスポートの活用により、他者と協働し、活動する力を育んでいる。	A (A)	・全ての学年で地域連携活動を組織的・計画的に実施する。
					人権意識を育む指導	・いじめのアンケートによる予防および早期発見の推進。 ・人権教育ホームルームの毎学期実施。 ・人権教育講演会の開催。	3.0 (3.1)	2.9 (3.0)	2.9 (3.2)	B (B)	【結果】 ・いじめのアンケートの活用を徹底し、未然防止を行った。 ・人権教育ホームルームを毎学期実施するとともに、江津高校と人権だよりを共作した。 【課題】 ・人権教育に係る活動の保護者への周知。	・偏見や差別について、現実に何が起こり、変化しているのか知ることも大切である。 ・どういう問題が発生し、対策や経過など、具体的な現状が評価時にあるとなお良い。 ・他校との人権だよりの共作等、人権について正面から取り組んでいる。	A (A)	・人権教育の視点で保護者向けの情報発信を増やす。
				学習力の向上	探究的な学びを育む指導	・地域連携活動や探究学習を持続的・計画的に実施するための単元配列表の作成。 ・課題研究において評価と指導の一体化を進めるためのルーブリックの見直し。	3.1 (2.8)	3.2 (3.0)	3.0 (3.3)	B (B)	【結果】 ・１年生において単元配列表を作成し、地域連携活動や探究学習と各科目の関連を示した。 ・３年生の課題研究用のルーブリックの改善と工業科全教員による検討会を実施し、評価と指導の改善に取り組んだ。 ・３年生の課題研究では５つの地域連携の取り組みが実施された。また、共通教科会でも教科等横断的なミニ探究フェスタが実施され、探究的な学びの指導が組織化され始めた。 【課題】 ・地域連携活動や探究学習指導に関する学びのつながり。	・関係機関との連携、地元の方々のご協力を得て活動に広がりが見られる。 ・地域との連携を検討しながらお願いしたい。 ・地域に出て学ぶ機会も多く、社会に出ていく過程で様々な経験をつむことができる環境は、専門高校にとって有益である。 ・交通安全の啓発モニュメントや木製パネルの製作、売上金の一部寄付など、地域に貢献していた。 ・地域には課題が多くある。そこから学び、つながることが必要である。 ・校外に目を向けた探究フェスタが地域連携活動につながっている。	A (A)	・地域連携活動や探究学習に係るそれぞれの学びや事業のつながりを強化する。
					主体的な学びを育む指導	・情報端末による家庭学習時間の調査。 ・情報端末を活用した宿題による家庭学習の定着。	2.9 (3.0)	2.9 (2.9)	2.6 (2.8)	B (B)	【結果】 ・情報端末を活用して家庭学習時間を毎日調査し、共有を図った。 ・ＩＣＴを活用した主体的・対話的で深い学びのための授業改善に係る研究授業を年７回実施した。 ・情報端末を活用した宿題については進んでいない。 【課題】 ・生徒の家庭学習の充実を目指した取り組み。 ・授業におけるICTの効果的な活用。	・家庭で短時間で取り組める課題等が必要である。 ・Classroomを活用した学習について、教職員と生徒の双方が機能への理解が浅いと感じる。授業の現場でも、もう少し活用してみてはどうか。 ・興味が湧くような指導をお願いしたい。 ・実際に授業を見て、評価する機会があると、より評価しやすいと思う。 ・教職員の意見やタブレット端末の明確なルールについて、早急な対策が必要である。 ・ICT学習の深度化と今後の活用方法及び効果の検証が必要である。	B (A)	・家庭での学習を想定した課題や指導を実施し、教職員の研修会等により共有する。
				社会人基礎力の向上	挨拶や身だしなみ、掃除などの指導	・身だしなみ指導に係る生徒アンケートを実施して指導に反映。 ・登校時指導で挨拶や身だしなみについての声かけ。 ・掃除時間に音楽を流し意識づけ。	3.2 (3.4)	3.2 (3.2)	2.6 (3.3)	B (A)	【結果】 ・身だしなみ指導について、生徒会によるアンケート調査を実施し、共通理解を図った。 ・正門で毎朝の登校指導を実施し、挨拶や身だしなみについて声かけを実施した。 ・生徒有志により、定期的に通学路クリーンアップ活動を実施した。 【課題】 ・頭髪に係る校則の検討。 ・生徒主体の生活習慣の改善。	・学校周辺も含め掃除は行き届いており、清潔感を感じる。 ・場面的に見ている部分については良いが、本質のところはレポート判断しかないので、実際の学内の様子を見る機会があると良い。校則については時代、環境の変化に伴い、改善を進めて欲しい。 ・パネル贈呈式等で生徒の端正な服装や態度で好感が持てた。 ・あいさつや身だしなみについて教職員の評価が低いのが気になる。 ・身だしなみとオシャレとの違いの教育を継続する必要がある。	A (A)	・生徒自らが生活習慣を改善できるように支援・指導を行う。 ・生徒、教職員全体に対して、指導を見える化し、共有する。
					時間の管理と計画的な行動を育む指導	・提出物の管理等に課題を抱える生徒について、生徒育成委員会を毎月開催し、具体の支援を実施。 ・授業開始２分前に着席する指導。 ・週末予定の明確化と予定変更の際の報告の徹底（寮）。	2.9 (3.0)	2.9 (3.1)	2.9 (3.0)	B (B)	【結果】 ・インクルーシブ教育推進員、合理的配慮アドバイザー、スクールカウンセラーの協力を受け、生徒育成委員会を毎月開催し、多様な課題を抱える生徒に具体の支援を実施した。 ・全校で朝礼開始５分前登校を徹底し、朝学習を実施した。 【課題】 ・保護者と連携した生徒の育成・支援。	・保護者の意識も重要である。 ・専門家の意見を取り入れながら改善に取り組んでいる。 ・規則や約束は厳守でお願いしたい。 ・ICTの活用できる領域なので、学校の仕組みの中に取り入れて欲しい。 ・計画性や時間管理、約束の重要性を継続指導して欲しい。 ・５分前行動の定着に向けた指導を行っている。	B (B)	・個別の生徒に係る支援体制及び家庭との連携を強化する。 ・学習に向かう環境づくりに取り組む。
					危険予知能力と技術力・判断力が身につく指導	・危険予知に関する指導を１年生の単元配列表に記載して徹底。 ・実習や実技を伴う授業において危険予知能力が身につく指導の徹底。	3.2 (3.2)	3 .0 (3.0)	2.9 (3.0)	B (B)	【結果】 ・１年生の単元配列表を作成し、危険予知に関する指導を記載した。 ・実習や体育の授業において危険予知について指導し、事故防止に努めた。 【課題】 ・生徒による危険予知の実践及び定着状況の評価。	・家庭でも子どもの能力確認が難しい。 ・自分の身を守る訓練の継続をお願いしたい。 ・中身がチェックしにくいので、レポート以外にも判断材料が欲しい。 ・安全が全てであり、教育の徹底をして欲しい。 ・作業のリスクアセスメントの実施や過去の事故例の紹介が必要である。	A (B)	・安全点検の参加や作業のリスク評価の実施など、生徒の危険予知体験や訓練をさらに実践する。
				キャリア教育の充実	生徒の進路意識を高める指導	・求人票管理システム導入による就職活動の充実。 ・進学に関する指定校情報のクラス掲示。 ・大学見学の実施（１年生）、大学のオンライン講義の実施（２年生・３年生）により、多様な進路選択肢の提供。 ・企業見学の実施（全学年）。	3.2 (3.3)	3.1 (3.1)	3.2 (3.3)	A (A)	【結果】 ・求人票管理システムを導入し、個人面談や保護者面談で活用して進路選択の一助とした。 ・広島工業大学のご協力により、大学見学（１年生）、オンライン講義（2年生・３年生）を行うことで多様な進路選択肢を提供するとともに、日常の学習を深化させた。 ・全学年で県内企業見学を実施するとともに、ふりかえり学習を新たに開始した。 【課題】 ・学年に応じた生徒自身のキャリア形成に係る意識の深化。	・情報提供が充実していた。また、進学希望者には教職員から直接体験談なども聞くことができ、参考になった。 ・生徒にとって有益であったか、見える化していく必要がある。教職員がどのように指導しているのか？指導内容が教職員個人の知識、経験、スキルに依存していないか？など、客観評価できると良いと思う。 ・生徒への就職・進学先についての詳細説明と多様な情報提供がなされている。	A (A)	・各学年に応じたキャリア・プログラムを作成するとともに各事業を構造化する。
					進路実現に向けた指導	・朝学習の実施による基礎学力の向上と定着。	3.2 (3.4)	3.2 (3.2)	3.2 (3.5)	A (A)	【結果】 ・朝学習の時間を設定し、基礎学力の向上と定着を図った。 ・数学科において、大学進学の希望者を対象に数学の個別補習を実施した。 ・難易度の高い資格試験（第一種電気工事士、電気主任技術者、測量士補、２級建築施工管理技術検定）の受験支援を行った。 【課題】 ・資格取得や進学後に必要な学力に係る学習指導の組織的取り組み。	・進学希望者は、就職希望者への対応の方が手厚いと感じており、受験対策に不安も感じていた。 ・「生徒の進路意識を高める指導」に記載したことと同様に、生徒にとって有益であったか、見える化していく必要がある。 ・資格取得に向けた学習の指導の継続と基礎学力向上に向けた受験支援がなされている。	A (A)	・計画的な進学補習を実施する。 ・生徒による積極的な資格取得を推進する。
				学校の活性化	教育活動や部活動、地域とのかかわりの発信	・ホームページに部活動の様子などの生徒の日常の記事を掲載。 ・部活動加入の推進。	3.1 (3.0)	3.1 (3.1)	3.3 (3.4)	B (B)	【結果】 ・ホームページにおいて、４月～１２月で１５３件の記事を掲載し、教育活動を発信した。 ・中学校や地域向けに「ごうこうNEWS」を毎月発行するとともに、地域連携活動をまとめた学びのフィールドマップを作成した。 ・保育園、サマースクールと連携し、「コウギョウを見に行こう」を３回実施した。 ・江津市内の全てのコミュニティセンターと幼保子ども園に交通安全啓発ミニ看板を作成して提供した。 【課題】 ・部員数が少ない部活動の活性化。 ・生徒主体の情報発信。	・部活動の重要性も検討して欲しい。 ・新聞を市民に回覧板で告知しているのは良い取り組みであるが、江津市外ではなかなか回覧できないと思うので、市外に対する広報にも取り組んで欲しい。市民と学校との接続を増やしていることは素晴らしいと思うので、今後も生徒以外の関わりしろを増やし、専門高校の理解と地域貢献を進めて欲しい。 ・各種チャンネルを活用した学校の情報発信がなされている。各中学校への江津工業高校の魅力の発信が必要である。	A (A)	・ボランティア活動を推進する。 ・中学校等への生徒による情報発信機会を計画する。
					生徒の安全を考えた環境整備の充実	・カーテンのクリーニングおよび交換･補充の計画。 ・安全点検後の積極的な修繕。	2.9 (2.9)	3.0 (3.1)	2.9 (3.1)	B (B)	【結果】 ・学校全体の設備を把握し、必要に応じて修繕を実施した。 ・安全点検後の積極的な修繕を行った。 【課題】 ・校内のバリアフリー化。 ・危険予知による生徒主体の安全点検の実施。	・生徒に配慮した環境整備と美化に力点を置いた学校運営がなされている。 ・生徒の安全に対し積極的に取り組んでいる。 ・バリアフリー化を進めて欲しい。 ・専門高校ならではの環境整備ができると良いと思う。 ・限られた予算であり、必要に応じて修繕を行っていただきたい。 ・優先順位に伴う予算活用をお願いしたい。	A (A)	・危険予知訓練と連動した生徒による安全点検を実施する。 ・優先順位をつけて、計画的に環境整備を行う。